

ピロリ菌の研究

北海道大学病院長 教授 **浅香正博**

科学研究費補助金(科研費)

Helicobacter pylori感染と胃粘膜病変発生の関連性について-
胃癌との関わりを中心に-
(一般研究(B) 1995~1997)

Helicobacter pyloriと胃癌発生
(重点領域研究 1997~2000)

解糖系のキー酵素であるアルドラーゼAの抑制による癌細胞発育抑制の試み
(萌芽研究 2004~2005)

- 日本国内におけるヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)の感染率の詳細を初めて明らかにした。
- 日本人の国民病といわれていた萎縮性胃炎の原因の大半はピロリ菌が原因であることを突き止めた。
- ピロリ菌が胃癌それも早期胃癌と強い関わりがあることを発見。
- 沖縄地方に胃癌が少ないのは、ピロリ菌の感染率が高いからではなく、細胞障害性の弱いピロリ菌の割合が高いことに由来していることを証明。
- ピロリ菌を除菌すると、胃癌の発生が3分の1になるという研究成果をLancet誌に発表。ロイター、BBC、ニューヨークタイムスなどに速報掲載。

これらの研究成果をもとに日本ヘリコバクター学会ガイドラインでピロリ菌感染はすべて除菌をするよう勧告。
「高松宮妃癌研究基金学術賞」を受賞(2009.2)
「朝日がん大賞」を受賞(2009.9)

選択症例の背景因子

	非除菌群	除菌群
症例数	250	255
性別		
男性	191	195
女性	59	60
年齢	69	68
分化型の割合	99%	99%
m癌の割合	96%	96%
萎縮性胃炎(中程度以上)	77%	73%
腸上皮化生(体部)	47%	51%

